

# 日本水上スキー・ウエイクボード連盟

## 2021年-2024年度 事業戦略

2021.07.30

日本水上スキー・ウエイクボード連盟理事会

2021年9月23日のスキーヤーズ・ミーティングで公開。

# 活動の指針となるミッションとビジョンと戦略を定める



- 定款では、下記のように目的を定めています。

【第3条】 この法人は、広く一般市民を対象に、水上滑走スポーツに関する全日本選手権大会及びその他の競技会の開催並びに協力に関する事業を行い、水上滑走スポーツの普及及び振興をはかり、もって国民の心身の健全及びスポーツ一般の発展に寄与することを目的とする。

- これに準じて、ミッション、ビジョン、戦略を改めて定めます。

## ミッション（存在意義）

- 水上スキー、ウエイクボードなど水上滑走スポーツの競技および教育の普及と振興を通して、選手のスポーツマン精神の育成と人格形成に貢献する。

## ビジョン（目指す先）

中期：

- 競技者の増加
- 組織および選手の多様性の受容
- 国際大会への選手、審判、役員派遣の増加

長期：

- 加盟する都道府県連盟の増加
- 新カテゴリーへの支援
- 国際大会および国際組織における選手、審判、役員の貢献

## 戦略（実現への道筋）

- 大会参加者の増加。
- 技術向上の促進。
- 組織の強化。
- 財務の強化。
- 人材の育成。
- 選手、コーチ、審判、役員への教育。
- マーケティングの強化。
- 競技環境を整える。

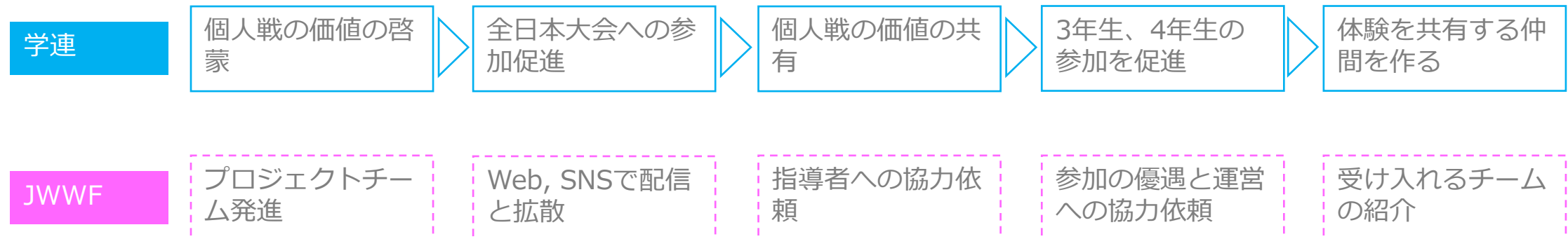
# 大会参加者数の増加 - ジュニアの育成と学連出身者の継続の促進



- かつて競技者だったシニア世代のジュニアを誘致する。



- 毎年50名以上の競技者が卒業する学連の大学生の競技継続を促す。現状は、団体戦のインカレにのみ焦点を当てているため、ほぼ全ての学生がインカレ後に競技を継続していない。



# 技術向上の牽引 - 競争環境、指導力向上、ステップアップの促進



- 競争環境を整える。国際対応を意識し、アスリートの視野を世界に広げる。

国際規格に合わせた競技規則の制定

国際規格に合わせたクラス設定

国際規格のボートや用具の情報提供

オンライン、SNSで個人を紹介

- 指導力を向上させる。

国際レベルの指導要領を紹介、共有

指導者間の技術情報の共有を促進

ボートや用具の情報共有を促進

JWWF公認の指導者を育て指導派遣

オンライン、SNSで個人指導

- ステップアップの道筋を作る。

レベル別の競技会の設定

ランキングリストの制定

国際大会への派遣基準の浸透

公認大会での貢献をメディアで拡散

オンライン、SNSで世界へ配信

# 組織の強化 - スポーツ団体ガバナンスコードに則り強化を図る

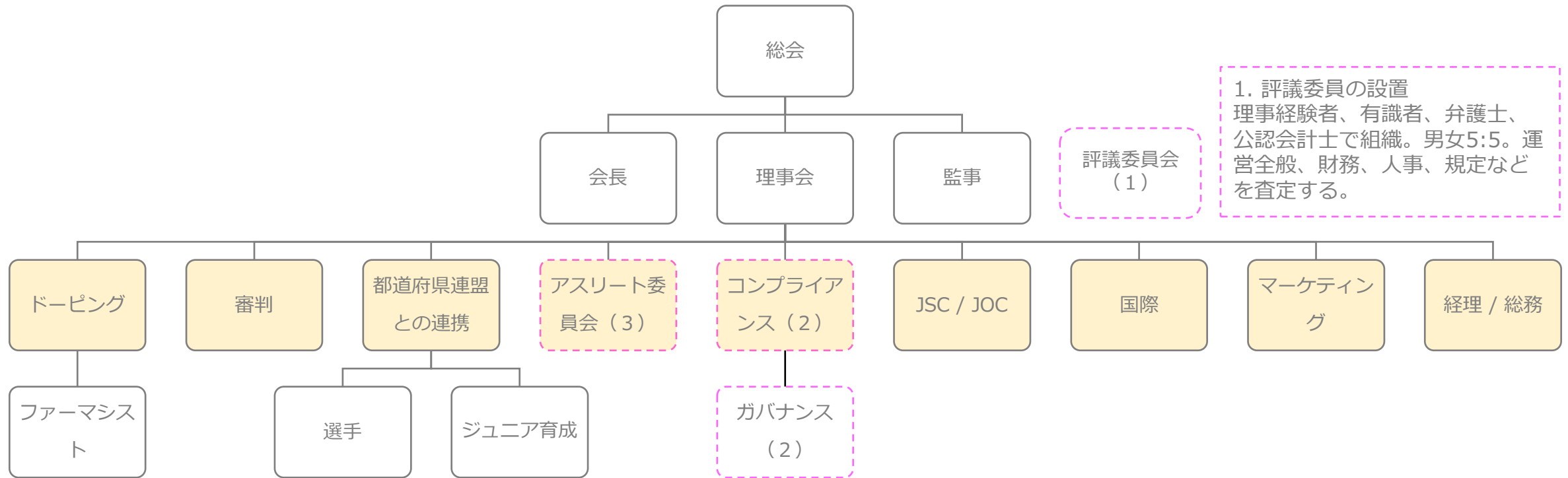


- 13の原則を取り入れ、2022年のピーク時（9月）に実施できるように強化と準備を進める。

	原則	2021年度	2022年
原則1	組織運営等に関する基本計画を策定し公表すべきである	改訂、実施	
原則2	適切な組織運営を確保するための役員等の体制を整備すべきである。	改訂、実施	
原則3	組織運営等に必要な規程を整備すべきである。	改訂、実施	
原則4	コンプライアンス委員会を設置すべきである。	準備	実施
原則5	コンプライアンス強化のための教育を実施すべきである	準備	実施
原則6	法務、会計等の体制を構築すべきである	準備	実施
原則7	適切な情報開示を行うべきである。	改訂、実施	
原則8	利益相反を適切に管理すべきである	準備	実施
原則9	通報制度を構築すべきである	準備	実施
原則10	懲罰制度を構築すべきである	準備	実施
原則11	選手、指導者等との間の紛争の迅速かつ適正な解決に取り組むべきである。	準備	実施
原則12	危機管理及び不祥事対応体制を構築すべきである。	準備	実施
原則13	地方組織等に対するガバナンスの確保、コンプライアンスの強化等に係る指導、助言及び支援を行うべきである。	準備	実施

# 人材の強化 - フラット組織と明確な役割設定

- 9部門の役割（2部門追加）を明確にして遂行を強化。評議員も設置。
  - 9部門は理事と事務局で分担。採用では、機動性、柔軟性、人格を重視。



1. 評議員の設置  
理事経験者、有識者、弁護士、公認会計士で組織。男女5:5。運営全般、財務、人事、規定などを査定する。

3. アスリート委員会の設置  
専門知識を有する人員、現役のアスリート、コーチ、ジャッジで構成。男女5:5。選考と育成に公平性と透明性を求める。

2. コンプライアンス/ガバナンス委員の設置  
専門知識を有する人員を登用。規定の制定、管理、教育、浸透を担当する。女性1名。

# 組織の多様性 - 女性比率42%、外部比率42%の構成



- 理事、事務局、評議員で17名の構成として、多様性にも対応する。

(2021年)	内部男性	内部女性	外部男性	外部女性
理事・監事	7	1		
事務局	2	2		
評議員（理事経験者）				
評議員（弁護士）				
評議員（公認会計士）				
評議員（学識者）				
合計	9	3	0	0

	男性	女性	女性比率
男性：女性	9	3	33%

	内部	外部	外部比率
内部：外部	12	0	0%



(2022年)	内部男性	内部女性	外部男性	外部女性
理事・監事	7	1		
事務局	2	2		1
評議員（理事経験者）			1	
評議員（弁護士）			1	
評議員（公認会計士）			1	
評議員（学識者）				1
合計	9	3	3	2

	男性	女性	女性比率
男性：女性	12	5	42%

	内部	外部	外部比率
内部：外部	12	5	42%

# 財務の強化 – 収入を増加させて、強化ポイントへ投資

- 会費収入とスポンサー収入の増加を推進。

	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
会費収入 (,000)	3,513	4,714	3,446	3,500	3,500	3,800	4,100
会員数	521	596	473	463	500	550	600
大会参加料収入 (,000)	1,945	939	0	1,200	1,300	1,400	1,500
参加数	78	70	0	100	110	120	130
大会広告 (,000)	180	300	0	300	400	500	600
スポンサー (,000)	0	0	0	0	300	500	700

\* 2019年と2021年は競技役員登録費が含まれる。2019年880、2021年150。 \* 2021年以降は予測。

- 大会参加者の増加、情報配信、スポンサー対応に予算を投下。

	2018	2019	2020	2021
全日本大会予算 (,000)	4,346	6,573	0	10,052
JSC助成 (,000)	2,373	3,228	0	4,219

\* 2021年にライブ配信 (1,200)、ビブス (323)、スタッフユニフォーム (269) など展開。

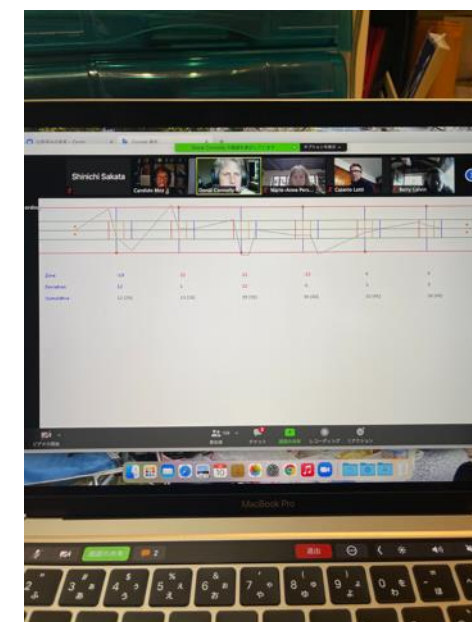


スポンサー名の掲出のために作成



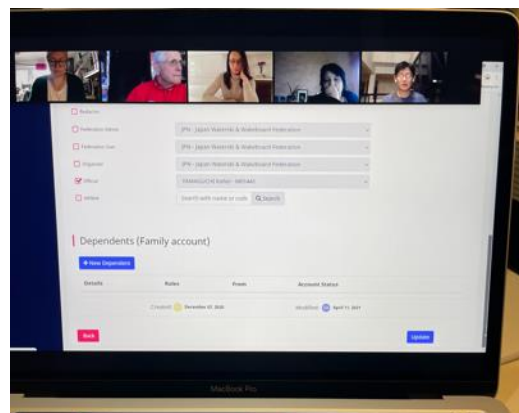
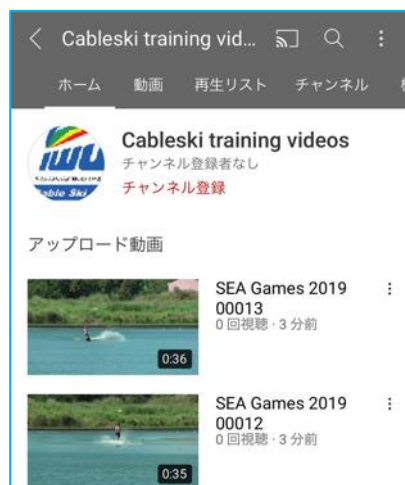
# 教育 – 競技者として、国際人としての成長を促す。

- オンラインで説明会やセミナーを実施。IF主催のセミナーにも参加。



アンチドーピング講習

IWWF (IF) のルール講習



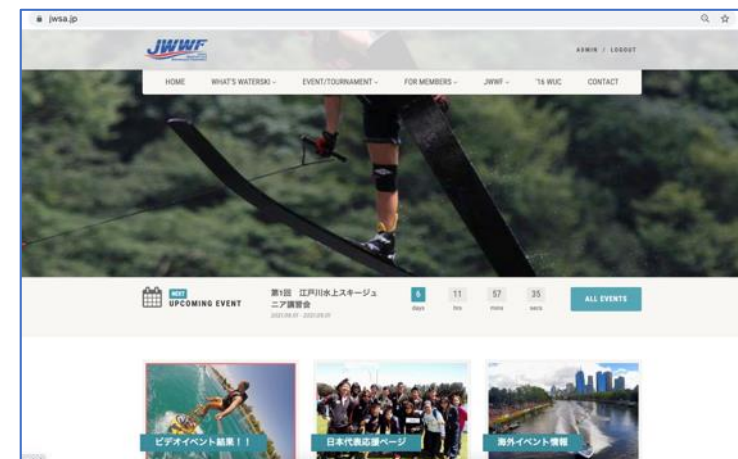
IWWF Asia (Region) エントリーシステム開発の説明

IWWF (IF) 新カテゴリー（ケーブルスキー）の説明

# マーケティングの強化 – SNSとオンラインで活動内容の発信



- SNSでの発信の種類と頻度数を増やす。ホームページは一般向けの情報を加え改良する。



- ライブ配信の促進。コロナ禍の昨年のテストランを経て、今後の稼働を進める。



# 競技環境の整備 – 国際規格サイトと新規サイトの開拓

- 秋田県大潟村はWUCの実績のある世界基準を満たす環境。さらに改良を続ける。



- 都道府県連盟の主導で新規サイトを開拓。郡ダム（君津市）、手賀沼（我孫子市）など。今後は、JWWFも予算を配分し、早期に公式サイトとして利用できるよう協力。



## 現状分析から今後の戦略の強化と優先ポイントを探る



- 全日本大会参加数、国際大会でのレベル、競技環境の現状、財務状況、アスリートの声